

【第 19 回パラグアイ便り】



2016年日本人移住80周年記念イベント

『アスンシオンで豪華絢爛たる着物ページェントー当地日系人社会の試みー』

今年はパラグアイ移住 80 周年、当地の日系人社会では各種のイベントを企画、実施していますが、この 2 月 18 日にアスンシオン市内の総合文化公会堂『パラグアイ・日本人造りセンター』内の大劇場で、日本より一足早く桜の咲き乱れる豪華



(写真上：開会挨拶の筆者夫妻と新郎新婦役の 2 人)

絢爛たる着物ページェントが繰り広げられました。

今回の着物ショーの趣旨は、この移住 80 年の歴史で日本人移住者とその子女達を受け入れてくれたパラグアイ社会に対する感謝の気持ちを表現しようとしたものであり、当国在住の日系人の方々が、それぞれ筆筒の中に大切にしまっていた

いろいろの種類を着物、見事な訪問着、あでやかな振袖、また気軽な浴衣、さらには女学生袴などを持ち寄り、実現させました。出演者はみな素人で、当地在住日系人の 3 歳から 75 歳までのご婦人方総勢 70 名が参加しました。息をのむような華やかさ、繊細さが舞台を包み、日本文化の伝統と真髄のこもった素晴らしい舞台風景となりました。

あわせて男性の和服も紹介しようということで、冒頭結婚式の設えで新郎役の青年とともに、筆者夫妻も和服姿の主賓の趣で登壇し、冒頭の挨拶をしました。



(写真：華麗な振袖と訪問着の紹介。当館の女性職員も参加しています。)

これだけの人すべてが着物で登場する機会など今時日本でも滅多にないことで、当初登壇を尻込みして舞台裏のサポートのみということで手伝っていた方々も、しだいに気分が募って来たのでしょう、最後は舞台での自身の着物姿に、ご家族ともども大満足の様子でした。



(写真左：移住初期の写真を背景にパラグアイの民衆歌を合唱。

演奏はパラグアイ楽器アルパ奏者マルティン・ポルティージョ氏。 写真右：非日系のお嫁さんによる着物披露)

今回のイベントでは、日系人が持ち込んだ日本文化とパラグアイ伝統文化との融合も理念に掲げています。パラグアイで世界的に有名な芸術といえば精緻な伝統的刺繍のニヤンドウティですが、この日のために和服にニヤンドウティを縫い込んだ着物も紹介されました。また当国で有名なアルパ奏者のマルティン・ポルティージョの演奏による、当国では誰もが知っている民衆歌【ウパカライ湖の思い出】の合唱や、日系家族の一員となっているお嫁さんによるあでやかな着物姿の披露もあり、それぞれ大喝采を浴びていました。



左の写真は、今回の公演に先立って当地主要新聞発行の別冊”VIDA”に掲載された特集記事ですが、表紙にこの着物が大きく紹介され、表題として『文化の融合』と書かれているのが分かります。

(写真：当地 UH 紙別冊特集記事：『和服：文化の融合』)



(写真左：舞台背景は当地の伝統刺繍ニヤンドウティ)

今回の公演で使用された着物はすべて移住者の人達の持ち物ですが、それを持ちよった質や量の豊富さには当の移住者の人達も驚くばかり。また舞台背景のスクリーンには移住の歴史を物語る映像や日本での桜満開の景色を映し出し、音楽や舞踊も加わって素人集団とは思えない、素晴らしい、質の高い舞台となり、500人近い満員の観客席の一般客や来賓の皆さん、さらに劇場に入りきれなくて中庭のスクリーンで鑑賞していた200人近くの観客も大満足でした。

に入りきれなくて中庭のスクリーンで鑑賞していた200人近くの観客も大満足でした。

最後は提灯が降りて、背景も夜空の花火に切り替わり一気に盆踊りに。浴衣姿のお嬢さんの登場で会場は熱気に包まれ大歓声のうちに閉幕しました。



(写真：浴衣姿の盆踊りと総出演の子供達)

本公演は現地の新聞やTVでも大きく取り上げられましたが、80周年記念事業の一環としてすべて現地の日系人の方々が、各方面からの協力を得て手造りで実現させたものです。
その内容の素晴らしさとともに、これを企画し実現させた当地ご婦人がたの熱意やパラグアイ社会への熱い思いには筆者も心から打たれ、改めて敬意の念を強く抱きました。



(写真：当地有力3紙の新聞記事が当地での盛り上がりを示しています。)

(上田善久 大使館 2016年2月)